

## 外国語教育のコミュニケーションにおける表現能力の涵養 —演劇を活用する—

西川寛之 (明海大学)・杉山正吾 (即興カニクラブ)

コミュニケーション能力の育成のために語彙や文法知識の積み上げの他、表現能力の育成が有効であると考えます。本発表では、言語教育における“インプロ”の活用を提案したい。

表現の一つとして演劇を挙げることができる。演劇は演じる側（演者）と見る側（観客）に分かれ、通常は演者が観客に向けてメッセージを送る。映画のように、まったく同じものを繰り返し見せるものがある。ただし、映画と比べるとその場にいる観客がどのような人間であるか、演者のメッセージにどのように反応しているかが直接演者に伝わるといった点が異なる。また、繰り返し同じものを演じたとしても、そこには失敗もあればアドリブなども存在し、毎回少しずつ異なるものとなる。現実の世界のコミュニケーションにおける表現は、映画よりも演劇に近い。演劇の表現と実際のコミュニケーションにおける表現は共通点があるが、演劇では表現が既に予定されたものである点が異なる。舞台上で見せる感情は、既に台本にあり演出されたものである。そのため、相手の言葉がその瞬間に感情を湧きあがらせるのではなく、相手の言葉を単なる合図として受け取り、「言葉」に反応するのではなく一人で演じる可能性がある。コミュニケーションにおいては予め準備された情報を提供することよりもその瞬間に生まれた感情を合わせて表現することが求められる。その瞬間をつかみ取る演劇のトレーニング手法の一つとして用いられている“インプロ”を言語教育における表現能力の向上に用いたい。

本発表では、“インプロ”の紹介とその活動において必要となる能力がトレーニング効果となるととらえ紹介することを目的とする。また、特に言語教育において重視される「言語」をあえて用いないことで、言語に付随する表現能力が高められるという仮定の下「(極力) 言葉をうけない活動」を紹介したい。また、「言葉をうけない活動」を中心に置いたワークショップを実施し、その参加者の感想を効果の一例として紹介する予定である。